Muse不具合一覧 - Bug #27
(V5.37)独音名表記x2と音部記号？を組み合わせると調性が狂う場合がある

2013/12/31 10:26 - Redmine Admin

ステータス:	終了	**開始日:**	2008/06/27
優先度:	通常	**期日:**	2008/07/11
担当者:		**進捗 %:**	100%
カテゴリ:		**予定工数:**	0.00時間
対象バージョン:		**作業時間の記録:**	0.00時間

説明

状況(2008.07.11)

V5.40にてリリース済み。

(原因)今までのプログラムは、調性無視を明に処理しているのは“ｈ”のみであった。 何故なら“ｂ”の方は初めから半音階の音価であるため、 調性記号で指定されるシャープやフラットが掛からない（対象になるはずがない）と 判断したためである。 ところが、音部記号？を使用した場合は、たとえ“ｂ”であっても、 全音部分にシフトする場合がある。 したがって、“ｂ”も調性を無視する処理を加える必要がある。

(対処)以下の処理仕様に改修した。
ドイツ音名の場合、音名“ｂ”は調性を無視する。
また、音名“ｈ”はフラット系の調性を無視する。

(追記)厳密に言うと本件の対処で上位互換が崩れるが、 音部記号と独音名を併用するデータは 極めて少ないと想定され、現実的には問題がないと判断している。 また、本件はあくまでもバグの対処であるため、積極的に互換性を崩す仕様変更ではない。

概要(2008.06.27)

アルト記号の場合のドイツ式表記の場合の ｈ ｂ の扱いに関しての質問です。
音部記号に関わらず、第３線に音符がある場合、調性（又は臨時）記号で
フラットが付いている場合 ｂ
フラットがない場合 ｈ
と記述する、と思ってきましたが、その理解であっているでしょうか？

いま入力に挑戦中の曲に♭６つの調が出てきて、ビオラのパートの音が変で、分からなくなってしまいました
以下の例を演奏してみてください

```
\------;変ト長調の場合

;ト音記号
#A0 x2 ?0 o3 g4 a b < c d e f g _2 ;b でＯＫ

;ヘ音記号
#A0 x2 ?6 o5 e4 f g a b < c d e _2 ;b でＯＫ

;アルト記号
#A0 x2 ?3 o4 f4 g a b < c d e f _2 ;b ではおかしい
#A0 x2 ?3 o4 f4 g a h- < c d e f _2 ;ＯＫ→h- と記述しなければならない？

;テノール記号
#A0 ?4 x2 o4 a4 b < c d e f g a _2 ;これは ｂ でＯＫ
```

アルト記号だけ扱いが違うのか、勘違いかな？

関連するチケット:

関連している Release # 118: Muse V5.37	**終了**	**2008/06/16**